

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立西川副小学校

校長 大石 文枝

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。学力向上のためには学校と家庭の連携が必要です。改めて、お子さんの学力について考える機会と捉えていただけると幸いです。

■ 調査期日 令和5年4月18日（火）

■ 調査の対象学年 小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

- | |
|--|
| ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。 |
| ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。 |
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

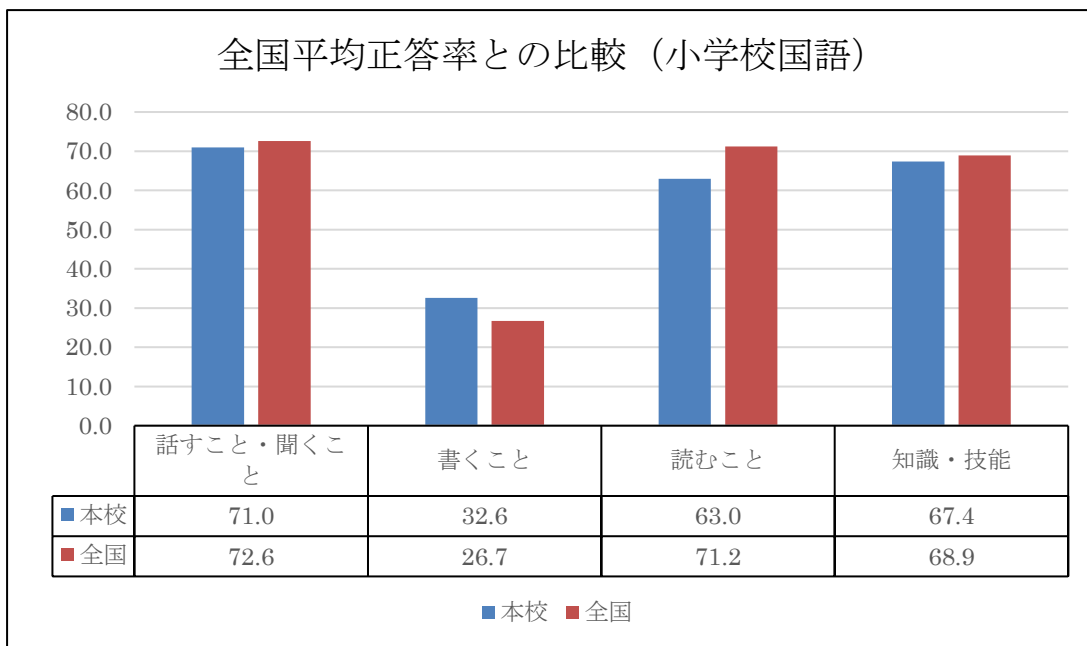
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果および考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

1 国語

(1) 領域別全国正答率との比較



「書くこと」領域、は全国平均正答率を上回りました。無解答率は、ほぼすべての設問で全国平均より低くなっています。

(2) 成果や課題

今回の調査では、「書くこと」領域が全国平均正答率を5.9ポイント上回りました。昨年度までの課題が「書くこと」領域でした。問題に課せられた条件に応じて文章を書く力をつけるよう授業改善をしてきた成果が見られました。

課題は「読むこと」領域で、全国平均正答率を8.2ポイント下回りました。文章を速く正しく読み理解すること、その理解したことに基づいて自分の考えをもち文章化することに課題があります。また、語彙力の少なさも正答率が低い要因となっています。「話すこと・聞くこと」領域と「知識・技能」は全国平均正答率と同程度ですが、敬語の使い方に関しては正答率が低く、普段から正しい言葉遣いをしていく等、学習したことを生活の中に取り入れていく必要があります。

(3) 学力向上のための取組

【学校ではこんなことを取り組みます】

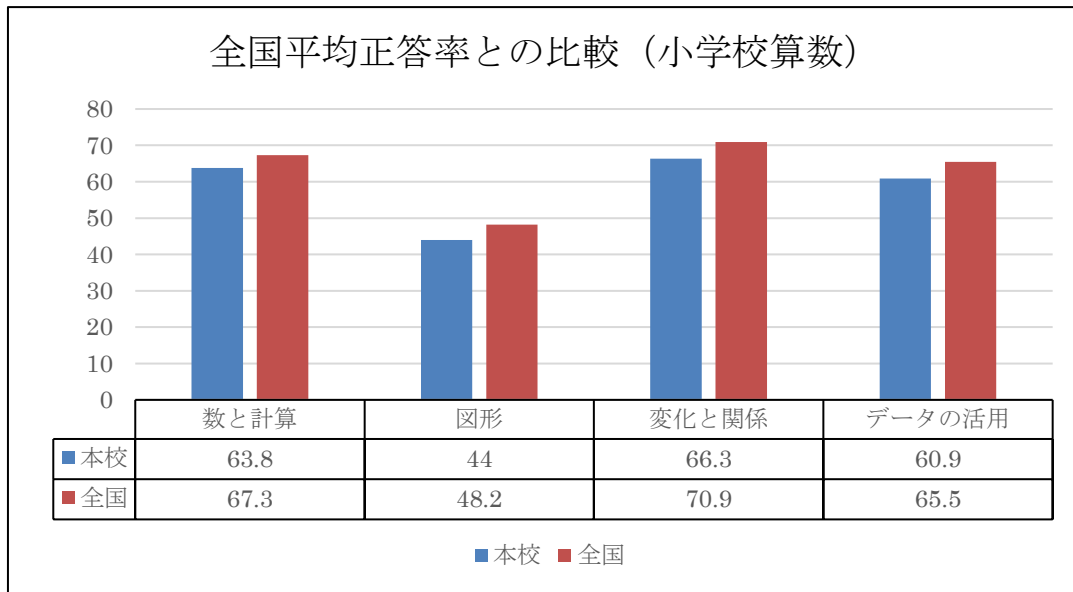
- 1 今後も「書く力」をつけるために、いろいろな教科で学習のふりかえり文を書く等、まとまった量の文章を書くことに慣れるようにしていきます。
- 2 「語彙」を増やすため、図書館まつりの開催や、貸出冊数が分かる掲示物等で読書活動を啓発します。また、クイズやカルタ等、語彙を増やす機会となる遊びを行う、「マイ辞書」を手元に置く等、語彙獲得のための環境づくりを工夫していきます。

【ご家庭ではこんなことを取り組んでみましょう】

どの学年も音読の宿題をほぼ毎日出しています。美しく優れた表現のある文章を繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、まとまりを意識して読み取れるようになるからです。もちろん、語彙を増やすことにもつながります。大変かとは思いますが、音読を聞き、「すらすら読めたね」「気持ちがかもっていたね」等、励ましの声かけをお願いします。また、分からない語句は辞書を使って調べる習慣をつける、親子で読書をする等、言葉や文章に触れる機会をたくさん作ってください。

2 算 数

(1) 領域別全国正答率との比較



すべての領域で全国平均正答率を約4ポイント下回りました。全設問のうち約3割は無解答率が全国平均より高くなっています。問題の後半になるにつれて無解答率が高くなっています。また、2極化の傾向があります。

(2) 成果や課題

今回の調査では、さまざまな定義や性質、公式等を正しく理解し使えるようになっていないために問題が解けていないという課題が浮き彫りになりました。例えば「図形」領域の、「正三角形は3つの角の大きさがすべて等しい」という性質を活用する設問では、全国平均正答率を14ポイント下回っています。また、三角形の面積の公式「底辺×高さ÷2」と、平行な直線の性質「平行な直線のはばはどこも等しい」を活用して、「二つの三角形の面積の大小を比較する」設問でも、全国平均正答率を9.1ポイント下回っています。算数科ではさまざまな定義や性質、公式等を学習します。しっかりと理解し、さまざまな場面で活用できるようになることが必要です。

また、問題の後半につれて無解答率が高いことも課題となっています。しかし、1問目の「表から変化の特徴を読み取って、表の中の知りたい数を求める」問題は正答率が100%でした。問題文をよく読み、問われていることを正しく理解し、時間を十分にかけてていねいに取り組みばできます。粘り強さや集中力、問題を解くスピードを身につけていく必要があります。

(3) 学力向上のための取組

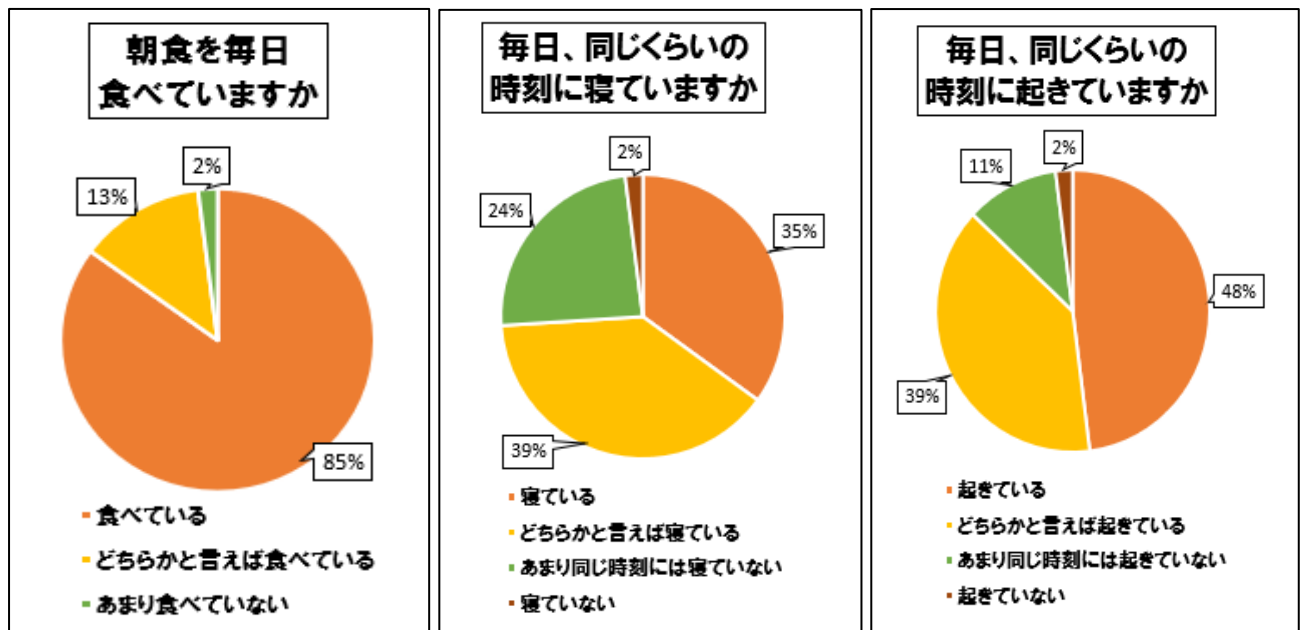
【学校ではこんなことを取り組みます】

- 1 火曜日の朝のチャレンジタイム（10分）では、1人1台端末等を使い、基礎学力の定着を目指して継続して取り組んでいます。
- 2 授業では、「考える」「書く」「話す」を柱に児童が考えを交流し学びが深まる場を設けて、授業の改善を目指しています。
- 3 単元のテスト等は、ていねいにやり直しをさせていきたいと思っています。

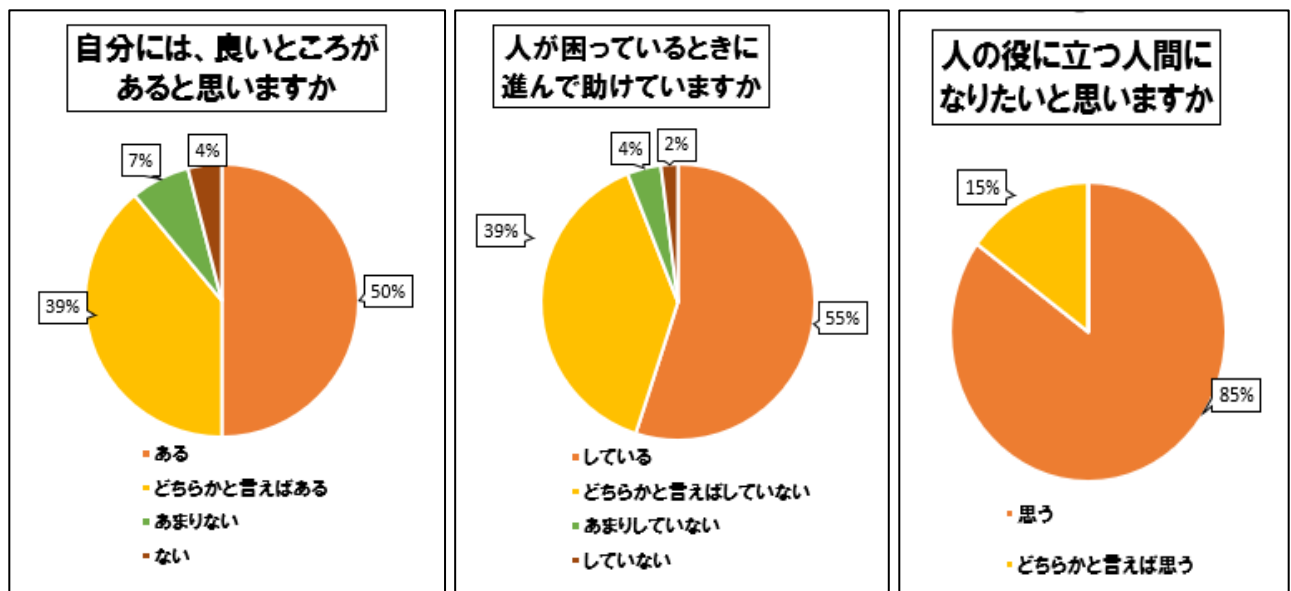
【ご家庭ではこんなことを取り組んでみましょう】

お子さんのノートや宿題、テスト等に目を通されて、学習への励ましをお願いします。お子さんが宿題等の取組の際に「分からない」と言ったときには、お家の方ができる範囲で話を聞いてください。答えを導くことができなくても、「分からないことが分かる」等、考えを整理できます。学習で大切な「粘り強さ」を養うことにもつながります。

3 生活習慣や規範意識、学習習慣に関する調査

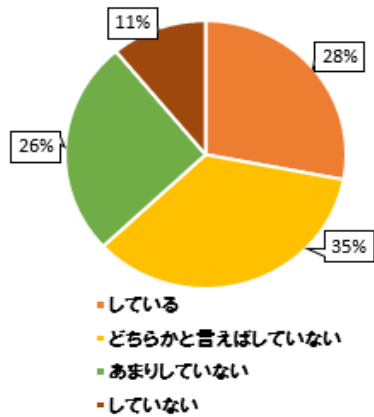


朝食を食べずに登校する児童が少なからずいます。また、同じくらいの時間に就寝したり、起床したりと、規則正しい生活ができていない児童もいます。学校で元気よく生活したり学習したりするために、規則正しい生活ができているか、見直しましょう。合い言葉は「早寝・早起き・朝ごはん」です。

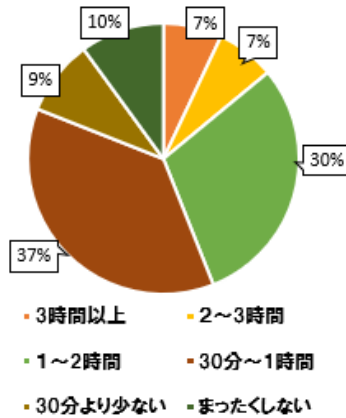


将来に人の役に立ちたいという思いを持っていることは、とてもよい傾向です。困っている人を進んで助けようとする姿は、学校でもしばしば見られます。どの子にも良いところがありますが、肯定的に回答できていない児童が約1割います。どの子もかけがえのない存在です。自分に自信をもって生活できるように、よさを見つけて声かけをしていきましょう。

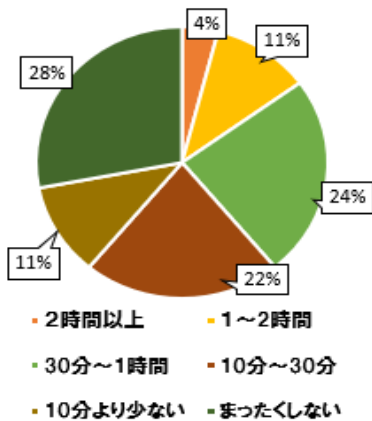
家では、自分で計画を立てて学習していますか



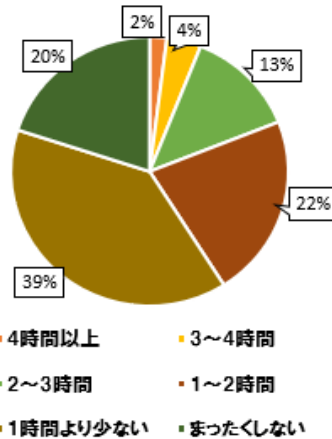
普段、家でどのくらいの時間学習していますか



普段、家でどのくらいの時間読書をしていますか



学校が休みの日に、どのくらいの時間学習していますか



家庭学習時間については、普段（月～金）、1時間未満の児童が半数以上、中には「まったくしない」と回答する児童もいました。休日の学習時間が1時間未満の児童は8割もいます。また、読書を「まったくしない」と回答する児童も3割近くいます。家に帰ってから寝るまでの時間の使い方を見直す必要があります。

【ご家庭ではこんなことを取り組んでみましょう】

- 学年に応じた家庭学習時間を設定しています。低学年は30分、中学年は45分、高学年は60分です。学年に応じた時間を集中して学習する習慣を身につけることは、学校での学習に対する集中力の向上につながります。学習に集中できれば、理解も深まります。さらには中学校での学力にも大きく影響します。まずは、学年に応じた家庭学習時間を、休日も含めて**毎日達成**できるよう、声かけをお願いします。4月に配布した「家庭学習の手引き」もご活用ください。
- 「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に、規則正しい生活習慣の定着をお願いします。テレビやゲームなどの使用時間を決めるなど家庭でのルール作りも、学習習慣の定着に欠かせません。
- 親子で読書、親子で調理など、親子での関わりを増やしてみましょう。共通体験を通じてかけられた保護者の言葉は子どもたちの胸に響き、これからの成長を後押ししてくれます。